様式3

令和2年2月19日

令和元年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間・最終 ）

天応　中学校区　校番　16　学校名　呉市立天応中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	学力・学習意欲を向上させる。 （貫）	授業の工夫改善（考える授業の創造）により，生徒の意欲を高め，学力を向上させる。	【結果】 〇2学期校内試験3割未満の生徒を前年度学年末試験と比較して，中間試験は47%減，期末試験は25%減，平均36%減となった。また1学期と比較しても8%減少した。 〇家庭学習時間を毎日1.5時間以上行っている生徒は全学年平均で49%で1学期と比較して8%減少した。 【考察】 〇2学期以降，3学年は入試に向けて放課後に「いのこり学習会」を実施したことで，学習内容の理解が進み，学習意欲や学習効率が上がった。しかし上半期同様，試験教科が5教科から9教科に増えると得点率3割未満の生徒が増加しており，学習が追いつかなくなっている。 〇3学年の1.5時間以上家庭学習をする生徒の割合が12%以上向上した。しかし，1学年と2学年の生徒は約5%減少したことで全体として8%の減少となった。学習内容が難しくなったり，目標がはっきりしないなどの中だるみの意識を変える必要がある。	〇これまでも2週間前に試験範囲表の配付を行ってきたが，今後も継続して行うとともに，フォーサイトに日々の学習計画と教科，時間を記入させ，毎日確認する。 〇低学力生徒に対し授業前後での質問を受ける機会を設けたり，個別指導を行ったりすることで理解を深め家庭学習に取り組む意欲を向上させる。 〇朝の会・帰りの会や学活等で課題や宿題の提出を促し，未提出者には通知と指導を行う。 〇家庭学習に取り組むよう1.5時間未満の生徒に対し教育相談や面談等を活用して指導する。
★★	豊かな心と健やかな体を育成する。	全ての教育活動において生徒が主体的に活動する場を設け，自己肯定感を向上させる。 体力・運動能力の向上への意欲を引き出し，記録更新へ積極的に挑戦させる。	【結果】 〇1学期末の生徒のアンケートの結果，自分には良いところがあると肯定的に評価している生徒は74%であったが，2学期末のアンケートでは79%と大きく伸びた。2学年は12．5%，3学年は16．6%増加した。しかし，1学年は8．8%減少している。 〇新体力テスト，呉市の重点項目については，県平均を上回る生徒の割合が，1学期の41.8%から51.6%に上昇した。特にハンドボール投げについては，県平均を上回った割合が58%で，目標値に大きく近づいている。しかし，持久走に関しては42%と大きく目標値より下回っている。 【考察】 〇2学年と3学年の自己肯定感が伸びた。3学年は小中一貫の行事のリーダーとして頑張ったこと，進路に向けて自分たちが頑張っていることなどが大きく評価を伸ばしたと思われる。2学年は部活動や生徒会執行部を担当する立場になり，それに取り組むことで自信が付いてきたと思われる。一方1学年は，1学期より中学生らしい生活を送るようになったことから，今までの自分と違うという点から評価が下がったものと思われる。 〇小中合同ロードレース大会や球技大会によって，意欲を持って運動する機会が増え，体力の向上の一助となっていると思われる。 〇新体力テスト3項目については，51%で目標値に届いていないものの，中間の結果から大きく変化しており，取組による効果があったと考えられる。また，持久走に関しては，ロードレース，球技大会への取組によって，記録が伸びた生徒もいたが，長い距離を走る機会が少ない生徒が多く，平均を大きく下回る結果となった。	〇自分たちが責任ある立場になり，活動し成功することで自己肯定感が上がるので，委員会の活動や，ボランティア活動などで生徒主導で開催できるようにし，成功体験をさせることで，自信を持たせたい。 〇「自分にはよいところがある」の質問で「全くそう思わない」と回答した1年女子2名，2年男子2名に対してはピンポイントの方策を行っていく。 〇保健体育委員会が中心にクラスマッチの大会を運営し，生徒が一体となって，体力を高めるための取組を行うことができる。 〇体力つくり朝会の実施数を増やして，学級，学校全体で，運動する習慣を身につけさせていきたい。 〇体育科では，筋力，筋持久力を高めるため，走る，跳ぶ等の動きを入れたサーキットトレーニングを実施し，体力の向上を図る。また，授業中での良い姿の例を書き出し，共有することで，目標を持って，授業に臨めるようにする。 〇部活動では，ランニング時間を長めに取ることや体幹トレーニングを取り入れた練習を指導していきたい。
★	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	生徒と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	【結果】 〇生徒と向き合う時間についての教職員アンケートの結果は，時間が確保されていると回答した教員は，「とてもそうだ40%」「ややそうだ60%」で肯定的回答率は100%であった。 〇長時間勤務の削減について，時間外勤務が月80時間を超えた人数は，11月…0名，12月…0名，1月…0名であった。しかし45時間以上の人数は11月…8名，12月…3名，1月…6名であった。 【考察】 〇部活動を行わない曜日の設定を行った。その曜日に，会議や研修等を集中して行うことができた。 〇時間外勤務についての個人の意識が高まったため，結果に表れた。45時間未満に向けて，更なる意識改革が必要である。	〇生徒と向き合う時間については，「とてもそうだ」の回答が，前回の調査【10月】と比較すると15ポイント下がった。今後は，内容の質を高めて教育相談や学習指導を充実させる必要がある。 〇時間外勤務，月80時間以下については，概ね目標値に達している。国の目標値，月45時間以下に向けて更なる削減を図る必要がある。